

都市計畫及國土計畫

王學士
石川孝綱著

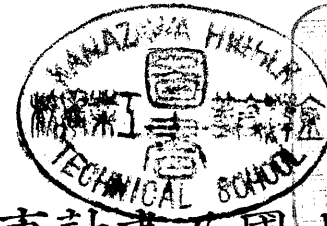
D12.01
I
20388

65

1
12
82-A

1-12-82-A

1-12-82-A



都市計畫及國土計畫

—その構想と技術—

内務省都市計畫東京地方委員會

技師 工學士

石川榮耀著

登録	昭和	54.10.3	年	月	日
番号	第	20388	号		
社団法人	土木学会				
附属	土木図書館				

名著100選図書

引取図書

工業圖書株式會社版

自序

1

此の小著を

「趣味の地理歐羅巴」前篇の著者と

「若き日の名古屋市民（大正9年～昭和8年）」に
贈る。

×

自分が趣味の地理歐羅巴前篇を手にしたのは盛岡中學の3年の春であつた。
それは地理と云ふ形式を通して風土に即した人間生活を「考へ」且「味ふ」事を
教へる本であつた。

それを手にした日の感激は今に尙忘れ得ない。

結局それが自分の都市計畫への杳なる發足となつたのである。

×

自分が待ち望んだ都市計畫の實際の如に足を入れたのは大正9年の10月であつた。

その任地は名古屋であつたが、今にしてそれが自分の一つの「運」であつた。

その名古屋は實に伸びる盛りの都市であつた。

それは自分の任期14年の間に40萬から100萬の都市になつた。

その逞しき都市は自分にどんな事でもさせてくれた。

筆に舌に試みに自分の描く稚拙な夢を笑ふ事なく、否笑ふ所ではない或時には肩を叩いてさへ聽いてくれた。

28歳から42歳迄の自分の名古屋市の生活は都市計畫技師としては最高の恵まれたものであつたらう。

×

顧みて、都市計畫技師と云ふ生活が自分に取つて幸であつたか否かは解らな

い。

少くもそれは家族に対しては世間並の満足と興へ得ない恵まれないコースであつたらう。

然し此の二つの記憶に結ばれた線上の生活が「楽しいもの」でなかつたとは寸毫も云へない。

「楽しく生きる」事が人生の一つねらいであるなら、何としても自分丈は此等の人々に深厚の謝意を表さないワケに行かないのである。

×

此の小著は自分が10年に餘る歲月教壇に講じたものを整理したものである。書肆のすすめに従ひ上梓する事にした。

元より世に問ふ程の完備したものではない。

たゞ自分としては常に「自分が身を以つて経験したものを中心に話し度い」と心がけて居た。

幸自分は名古屋に14年、東京に7年、しかも都市としては人口1萬以下の小より名古屋、東京の大迄扱ふ事が出来た。又仕事としては名古屋の區劃整理の經營から帝都防空計畫及大東京地方計畫と云つた様なもの迄手がけ研究する事が出来た。

又、支那、歐米、朝鮮、臺灣を一瞥する機会をも興へられた。

その點一通り「身を以つて」講ずる便宜はあつた。

又自分は「都市計畫」を講ずる際常に、此はあく迄「都市計畫」であり決して「應用土木工學」ではないと云ふ、所謂都市計畫の正統を傳へ度いと冀つた。

都市を研究し此を思索し、然る後加ふ可きものあらば初めて加へる——此の順序を傳へ度いと思つた。

それに対して十分の資格を有つてゐるとは思へない。

たゞ自分は不圖とした機会から商店街の研究に手をそめ、それが起縁となり地理學、社會學、經濟學及照明學等の方面の友人を有つ事が出来た。

更には都市經營としての工場誘致、觀光事業等の分野の知人をも有つ様になつた。

それ等の人々との接觸はいつとはなく自分に「都市」の片容を傳へてくれた様に思ふ。

此れは少くも上述の講述態度を幾分なりとも實踐し易からしめた。

又自分は講述に際し常にポケットブックを興へる様でもあり度いと思つた。

少くも此れをたづさへてその場に當れば或程度の指針は得る事が出来る——。ソウ云ふノートを作り度いと思つた。

云ふ迄もなく此等の意圖は餘りに「意に餘る」ものであつた事自明である。

その通り爲し得たとは考へ得ない。たゞそう云ふ方針が正しいものであると云ふ事はその後益々信じ得る様になつた。

此の小著の特徴と云へばそんなところにもあらう。

2

都市計畫界20年の主張である國土計畫、地方計畫もどうやら世界的に實行期に入つたらしい。

我國でもそれが取り上げられ一般の支持をうけて居る。

而して我國に於けるそれは、たゞ單なる都市計畫の史的前進でなく、我々が我々の時代に於ける「子孫永遠の世代に對する義務」——興亞の大業への挺となるのであらう。

本書がそうした大きな動きに幾分なり共盡すところがあり得れば本懐此に過るものはない。

3

最後に。——

此は蛇足かも知れないが自分は世上やゝもすると、國土計畫に於ける都市計畫の位置をたゞその末梢的下請にすぎないとなし、過少に評價するものがあるのを國土計畫自體の爲に遺憾に思ひ一言しておき度い。

国土計畫さしづめの目途は云ふ迄もなく生産力の増強であらう。

然し長き將來を考へての（或は10~20年と云ふかも知れない）計畫ならばそれは當然

生産力の増強

人間力の増強

と相ならんで考へられなければならない。

此に對し、概念派の人々は生産力の増強は自から人間力の増強を結果すると説明する。

然し果してそうであり得るであらうか。

少くも今迄の都市計畫は「そうでなかつた。丁度逆の結果になつた」事を救済する赤十字的役割であつた。

恐らく1900年來の世界の都市計畫はその役割への没頭であつたらう。

かくして我々の經驗は結局

生産力増強→人間力増強 1)

の順よりむしろ

人間力増強→生産力増強 2)

の形をとる可きものと教へる。

人間力の増強は自由放恣の政策では絶対企圖出来ない。

それは一つの人間工學に従つて構想されるのでなければ斷じて所期の結果を求める事が出来ない。

1) の形を云ふものは此れを偶然に僥倖し様と云ふ無責任な考へ方である。

それは英國的殖民地政策ではあり得ても夢「日本の本國政策」ではあり得ない。

自分はあく迄今日此の場合 2) を押す可きと考へる。

しかもかゝる順序を取る事が更に産業増強にブレーキとならざる可しと云ふに於て——尙更である。

果して、然りとせば少くも工業部門（廣い意味では農業部をも併せ）の人間

育生環境整備技術として、都市計畫以外の方法があり得様か。

（同じ様な事が農業部門と農村計畫に對しても云へる）

「大地に足せる国土計畫」とは實にかゝる方面への把握正しきものを云ふのである。

此の點自分の信念は固く動かない。

都市計畫の過少評價並に我々の国土計畫論に對し「都市計畫的国土計畫論」等と敢て輕評せんとする無識者があり、案外そうした言葉が行はれ易き人情の機微を察しこゝに一言加へて置いたのである。

或は此れを本書を通じての主張となす可きかも知れない。

昭和十六年八月

阿 伎 山 房

著 者

あ　と　が　き

本書を成すに當り幾多の人達に勞を御かけした。それをこゝで謝して置き度
い。

先づ此れを上梓するに至つたのは社長倉橋氏の御すゝめによるのである。
自分の我まゝは氏等の御熱意にもかゝらず追補に三年を費してしまつた。
誠に申譯ないと考へてゐる。

又自分の一つの悪いクセは校正の大げさなやり直しである。

第四校に至つて尙大きな手ぬかりを發見する次第である。

此の點印刷關係の方々にかけた御迷惑は大きい。

深く御詫し度い。

又此の書の圖面作製や校正に若い友人達の土曜、日曜の餘暇をさいて貰つた。

休養の貴重な日を幾日つぶして貰つたか解らない。

その勞をもこゝで謝させていたゞく。

×

此の勞作は（自分に取つては一つの勞作であつた）自分の父、自分の家族の
永く待つたものゝ一つである。

自分の父はついに此を見る事なく本年二月に死去した。

誠に遺憾の思ひが深い。

成るに及んで、うやうやしく父の墓前及家族達の前に一本を贈らなければな
るまい。

目　次

第1部 都市及都市計畫論

その1. 都市史及都市の定義	1
I. 世界都市史	1
1. 古　　代	1
A. 前　　期	1
B. 後　　期	2
2. 中　　世	3
3. 近　　世	3
4. 現　　代	5
II. 日本都市史	11
III. 支那都市史	12
IV. 都市の定義	14
その2. 都市計畫史及都市計畫の定義	14
I. 世界都市計畫史	14
1. 古代都市計畫	14
A. 前　　期	14
B. 後　　期	15
2. 中世都市計畫	16
3. 近世都市計畫	17
A. 近世都市計畫の特徴	17
B. Renaissance都市計畫年表	22
4. 現代都市計畫	23
A. 現代都市計畫の概観	23
B. 田園都市論	25
C. Cambera	29
D. 現代都市計畫年表	34
5. 明日の都市計畫	37
A. 明日の都市計畫の概観	33
B. Le Corbusier 説	39

C. Gottfried Feder の都市…41	D. 明日の都市計畫年表…43
6. 街路幅員發達史…45	
II. 都市史と都市計畫史…46	
III. 日本及支那の都市計畫史…47	
1. 日本都市計畫史…47	
A. 古 代…47	B. 近 世…48
2. 支那都市計畫史…49	
IV. 都市計畫の定義…53	
その3. 都市地理及都市計畫に顯はれたる地理的諸相…53	
その4. 都市構成の理論…55	
1. 理論の必要…55	
2. 都市構成の方法…55	
3. 布 置…57	
4. 組 系…64	
5. 整 備…65	
6. 都市計畫の規模と主題…69	
第2部 都市計畫の法財政及計畫準備	
その1. 都市計畫の法制…72	
1. 都市計畫法制史…72	
2. 日本内地都市計畫關係法規…72	
3. 同上主要法律の構造及法例…72	
1) 都市計畫法…72	2) 市街地建築物法…77
3) 都市計畫委員會官制…78	4) 臺灣都市計畫令…78
5) 朝鮮市街地計畫令…86	6) 關東州州計畫令…91
その2. 都市計畫の財政…97	
その3. 都市調査…105	

1. 自然調査…106	
2. 土地利用状態及建築調査…107	
3. 交通關係調査…108	
4. 施設及環境調査…110	
5. 災害調査…110	
6. 都市財政調査…111	
7. 人口及産業調査…111	
8. 都力測定及都市經營…113	
その4. 都力測定及都市經營…113	
1. 都力測定…113	
2. 都市經營…117	
第3部 都市内容の配分	
その1. 都市計畫區域…123	
1. 都市計畫區域の效果…123	
2. 區域決定の標準…124	
その2. 都市計畫地域及地區…124	
I. 地 域 制…124	
1. 地域制の意義…124	
2. 地域制の類別…125	
3. 本邦に於ける地域制の内容…130	
4. 地域決定の標準…133	
5. 地域制の實施…136	
6. 各地域面積比率例…136	
II. 地 區…137	
1. 地區の種類…137	
2. 防火地區…138	

- 3. 防火地區計畫方針…………… 138
- 4. 美觀地區及高度地區…………… 139
- 5. 專用地區及空地地區…………… 141

第4部 都市整備

甲 環境整備

- その1. 緑地計畫…………… 145
 - I. 緑地計畫…………… 146
 - 1. 分類及標準…………… 146
 - A. 緑地の分類…………… 146
 - B. 緑地の面積及分布標準…………… 147
 - 2. 緑地の配分形式…………… 148
 - 3. 緑地統計…………… 155
 - 4. 風致地區…………… 156
 - II. 造園手法…………… 159
 - 1. 伊太利式造園……………160
 - 2. 佛蘭西式造園……………160
 - 3. 和蘭式造園……………161
 - 4. 英吉利式造園……………161
 - 5. 獨逸式造園……………162
 - 6. 支那式造園……………162
 - 7. 北米式造園……………163
 - 8. 日本式造園……………163
- その2. 環境保善…………… 167
 - 1. 路上構作物の整理…………… 167
 - 2. 都市騒音防止…………… 170
 - 3. 空氣汚染防止…………… 172
 - 4. 公水面汚染防止…………… 174
 - 5. 要安靜地區…………… 176
- その3. 都市照明…………… 176
 - 1. 分類…………… 176
 - 2. 交通照明…………… 177

- 3. 都市美照明…………… 182
- 4. 保安及非常照明…………… 184
- 5. 保健照明…………… 184
- 〔参考〕 投光照明の設計に就て…………… 189
- その4. 都市の防災防護…………… 190
 - I. 都市防災…………… 190
 - 1. 風 害…………… 190
 - 2. 震 災…………… 193
 - 3. 火 災…………… 193
 - 4. 水 害…………… 193
 - II. 都市防護…………… 202
 - 1. 都市の防空形態…………… 202
 - 2. 大都市處理…………… 206
 - 3. 都市内部の防護構成…………… 207
 - 〔附〕 防空關係法規…………… 221
 - 防空建築規則…………… 221
 - 防空土木一般指導要領…………… 225
- 乙. 都市造型
- その1. 都市美構成…………… 238
 - 1. 都市美の本質…………… 238
 - 2. 都市美の種類…………… 238
 - 3. 都市美構…………… 239
 - A. 美觀廣場…………… 240
 - B. 美觀道路…………… 244
 - C. 水邊緑地…………… 245
 - D. 都市美構…………… 245
 - 〔参考〕 各國に於ける都市美育生制度…………… 250
- その2. 隣保構成…………… 251
 - 1. 緑地帯による分割…………… 251

2. 中心の造型	251
丙. 公共施設	
その1. 市場	256
1. 中央卸賣市場の意義	256
2. 市場の位置	256
3. 市場敷地	257
4. 市場館	258
その2. 下水處分場	260
その3. 塵芥處理場	261
1. 塵芥量	261
2. 處理方法	261
3. 焼却場の撰定	262
4. 残されたる問題	263
その4. 火葬場	263
1. 分布	263
2. 敷地	264
丁. 地帯整備	
その1. 土地區劃整理	264
I. 總論	264
1. 區劃整理の歴史及効果	264
2. 區劃整理の法制	265
3. 區劃整理の財政	266
4. 區劃整理の經營	269
II. 設計	272
1. 區域	272
2. 土地用途の想定	272

3. 街路網	272
A. 系統	272
B. 配線距離	274
4. 劃地及街廓	275
5. 區劃整理技術者以外の者が此れを代行する場合に陥り易き技術上の誤	276
III. 換地精算	277
1. 換地計畫順序	277
2. 規定要項(精算加味)	277
A. 位置	278
B. 用地負擔	279
C. 事業費負擔	280
D. 精算	280
E. 評價	280
F. 手續	280
3. 換地設計	285
4. 清算一應の理論	285
5. 評價	287
IV. 區劃整理と都市計畫	289

第5部 都市内容の組系

甲組系

その1. 交通構成論	296
その2. 街路網	299
I. 街路網の構成	299
1. 自然態	300
2. 計畫態	301
II. 街路網の構成工も問題なり	310
1. 組織順序	310
2. 街路網路線選定の留意事項	312

3. 街路の吟味	315
4. 輕計畫	315
III. 街路の配線	316
IV. 街路幅員決定法	316
1. 簡易法	316
2. 計算法	318
その3. 都市交通機關網	324
I. 路面電車及バスの網	324
II. 高速度交通機關	325
1. 高速度鐵道網	325
2. 高速度道路	331
III. 交通統制	334
1. 統制の必要	334
2. 統制體系例	335
その4. 都市計畫と鐵道網	339
1. 中央驛(及副中央驛)	339
2. 軌道敷位置	341
3. 網	344
その5. 交通整理	345
I. 交通廣場	345
1. 交通整理の基礎考察	345
2. 合流式	348
3. 分離式	354
4. Block system と Steady flow	357
5. 街角剪除	358
II. 駐車場	359

III. 驛廣場	363
1. 驛前廣場の面積の内容	363
2. タクシーの臺數推定	364
3. バスの臺數推定	365
4. 團體集合地	365
5. 驛廣場設計指針	367
A. 甲種驛前廣場設計要綱	367
B. 乙種驛前廣場設計要綱	368
6. 驛廣場の位置及形狀の決定	368
7. 驛裏廣場の設計	369
8. 驛附近街路の統制	369
9. 交通機關の統制	369
その6. 利水施設	375
I. 都市運河	375
1. 都市運河の種類, 目的	375
2. 運河網の形式	377
3. 運河配置距離	377
4. 開門とすべき限界	378
5. 運河の經濟長	379
6. 運河幅員	380
7. 岸壁高, 水深等の決定	381
8. 開門	383
9. 船溜	383
10. 陸上設備	383
II. 河川, 港灣	384
その7. 飛行場計畫	384
1. 飛行場の種類	384

2. 飛行場の配置	385
3. 面 積	387
4. 滑 走 路	388
5. 地形及土壤	389
6. 設 備	390
7. 高度地域	391
8. 飛行場諸例	392
第6部 国土計画及地方計画	
その1. 国土計画及地方計画概説	397
1. 沿 革	397
2. 現代に於ける国土及地方計画の諸形態	401
その2. 国土計画及地方計画の定義及構成論	402
I. 定 義	402
II. 国土計画及地方計画を支配する現代の特異性	405
III. 国土計画構成要旨	406
IV. 「地方」構成要旨	420
1. 構 成 順 序	421
2. 地方構造により生ずる構成手法	422
3. 成 圏	424
4. 都市機能の定立	426
5. 組 系	427
その3. 地方計画の法制	431
その4. 単位地方計画	438
I. 調整性地方計画	438
1. 大都市処理地方計画	438
2. 工業地方処理地方計画	456

II. 振興地方計画	460
1. 地方強化地方計画	460
2. 農業地方計画	463
その5. 総合地方計画	470
1. 総合地方計画の意味	470
2. 総合地方計画に関する外國の理論及實例	470
3. 我國に於ける総合地方計画	472
その6. 國 土 計 畫	475
I. 調整主義国土計画	475
II. 統制主義国土計画	476
1. 再編成性のもの=獨逸の国土計画	477
2. 振興性のもの=蘇聯邦の国土計画	488
3. 日本に於ける国土計画	492
索 引	494